



■「第1回総会」開催報告■

～設立1周年総会を終えて この1年を振り返り2年目を展望する～

6月21日（日）、設立1周年を迎え、高津区のとくのかわさきにおいて、総会を開催いたしました。22名が参加し、第1号議案から第5号議案まで、いずれも賛成多数で可決し、無事閉会しました。

2014年3月30日、原発ゼロ市民共同かわさき発電所は、「原発ゼロ」「市民による市民のためのエネルギー革命」を掲げ、有志メンバー5名によって始動しました。

原発のない社会を、自らの手で作り出す。そのために、私たちの手で市民発電所を作る。その新しい創造的活動のスタイルは、未来への希望と共感を生み、輪は広がっていききました。

多様な資質を持つメンバーが集まり、その能力を発揮するチーム体制が組織されていきました。活動の幅は、発電所の設立を進める事業検討を中核に、ニュースやプロモーションビデオなどのメディアアプローチ、イベントへの参加・企画を行う市民活動のアプローチ、そして、国や川崎市に対する政策参加のアプローチ。多様な方法でミッションを全うするための戦術が試みられています。

全国の先人たちの取り組みに学び、交流をしながら、私たちが川崎での役割を模索し、内外の結びつきを強めてきました。

多くのメディアの期待を受けて発信された私たちの活動は、市民が打ち立てた希望の旗となりました。

「これからも、わたしたちの希望であり続けてください。」2015年2月1日、遂に完成した第1号発電所の通電式で、ある参加者から託された言葉です。

原発や再生可能エネルギーを巡る情勢は、私たちの活動が生まれたときよりも深刻化しています。原発事故の被害は切り捨てられ、原発再稼働は目前に迫り、固定価格買い取り制度は改悪され再生可能エネルギーの抑え込みが図られています。

原発を認容しない多数の民衆は、命より経済を優先させ民意を無視する力の横暴に、無力感に苛まれて



いるのかもしれませんが。

しかし、だからこそ、私たちの活動は民衆の希望であり続けます。

原発ゼロ市民共同かわさき発電所は、2年目に入ります。

メンバー1人ひとりの個性を活かしながら、新しい創造的取り組みに挑戦する。気づけば育まれていたそんな姿勢を武器に、常に原点に立ち返ることを忘れずに、なお前進を続け、活動を飛躍させる2年目としたいです。

理事長 川岸 卓哉

■設立1周年総会『記念講演会』開催報告■

大義は我らにあり！



6月21日に、環境エネルギー政策研究所（ISEP）の所長である飯田哲也さんをお招きして、当法人の設立1周年総会記念講演会を行いました。

飯田さんには、「我が国の電力改革の理想と現実～市民と市民発電所の役割～」というテーマでお話をいただきました。

飯田さんのお話によれば、現在は世界的に自然エネルギーを利用する動きが加速しており、その一方で原子力の利用が落ち込んで、倒産する原発企業が現れるまでに至っているそうです。世界のエネルギーの流れは大規模中央独占型から小規模地域自立の自然エネルギーにシフトしており、原発をベースロード電源と位置付ける我が国の電力政策が世界の潮流に反していることがよくわかりました。



さらに、飯田さんは、福島原子力発電所事故をきっかけに表面化した我が国の電力事情の問題点を指摘されたうえ、今電力改革が必要であることをお話しくださいました。また、我が国における電力の小売全面自由化の課題や、発送電分離に関する課題などについても教えてくださり、我が国の電力事情を大変よく知ることが出来ました。そして、市民発電所がどのような点に注意して行政との関係を構築していくかということについてもご教示いただきました。

飯田さんのお話は、私たちの活動が間違っていないことを示してくださるものであり、大きな勇気をいただきました。川岸理事長も記念講演のあと「大義は我らにありと感じた」と申しておりました。今回の飯田さんのお話を、ぜひ今後の活動に役立てていきたいと思っております。

飯田さん、素晴らしいお話を誠にありがとうございました。

政策検討チーム 岩坂 康佑



■「静岡視察合宿」報告■

去る6月27日、28日、第3回目の視察合宿（参加者25人）を実施。過去2回の視察は飯田市や小田原市などの先進的な太陽光発電所を見学してきましたが、今回は「立地上世界一危険な」浜岡原発を見学コースに入れました。私達の原点「原発ゼロ」を考えるためです。

～原発誘致者の銅像がある街～



ほぼつながった浜岡原発の防波壁（16日、静岡県御前崎市で、読売ヘリから）＝安川純撮影

また、原発住民運動静岡県連絡会の案内で、御前崎市内「桜ヶ池公園」に「中部電力浜岡原子力発電所の創設に寄与した」という産経新聞社主の水野成夫氏の胸像＝右写真＝を見学。通称「原発道路」を有する人口3万4千人の御前崎市と原発の深い結びつきを感じました。

現地の反対運動をしている人も認めているように津波対策はある程度進展していますが、活断層を避けて建物があるこの地にはたして原発を残す必要があるか、大いに疑問が残りました。

「原発推進と反対の両方の立場から考えよう」と中部電力に原発施設見学を申し出て了解を得ましたが、当会の「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」の名前を出した途端見学を断られてしまいました。

今、浜岡原発は職員8千人、協力会社3千人の体制で総額3千億円をかけて改修工事を行っています＝左写真。原発のPR館・浜岡原子力館のガイドから防波堤等その安全性の仕組みを解説してもらい、再稼働に向けての真剣な取り組みを知りました。



～自然公園に太陽光パネルを設置したかー環境教育活動として～

翌日、約1年半という短期間で約150kW 総事業費8千万円の太陽光発電事業を成功させた「しずおか未来エネルギー(株)」の取り組みを学習。まず環境省の支援プログラムを活用し、「ストップ温暖化」のもとにNPOスタッフと市職員と一緒に地元金融機関も含め取り組みました。

資金面では、静岡信用金庫からこの事業を評価してもらい、担保なし・保証人なしに4千万円の融資を得て、市民からは一口5万円5年償還で2千万円をWEBのみで調達しています。

再生可能エネルギーの普及や環境教育活動のため人の集まる3ヶ所に設置しています。中でも1万人以上が集まる「IAIスタジアム日本平」に創りました＝写真。サッカー場に作ろうと検討しましたが、うまくいわずに駐車場に約52kWを設置。県の自然公園のため建物規制が厳しく多くの困難はありましたが、やっと完成に漕ぎ着けました。清水エスパルスとのコラボイベントも実施しています。このような知恵と実行力を知り、活動の励みになりました。

理事 高橋 喜宣きよし



■自己紹介コーナー■ No.11

今月号は、「希望のつばさプロジェクト」の代表でもある鴨下元^{げん}さんの自己紹介です。

「原発ゼロの政治決断を勝ち取るまで闘おう！」



NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所で監事をしている、かもした元と申します。

職業は、高齢者を日帰りで介護する通所介護施設の責任者をしています。

2011年の福島第一原発事故を受けて、毎年三月に川崎市で千名規模で反原発集会を4年続けて主催している「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」実行委員会の事務局として活動してきました。その運動の中で、政府や電力会社に市民の声を届ける継続的な活動の重要性を感じつつ、同時に、より広範な市民を巻き込んで反原発運動を展開するためには新しい工夫や運動が必要だと感じていました。その模索の中から生まれたも

のが私たちのNPO法人による市民発電所づくりの運動です。市民発電所は発電規模から見れば社会に与える影響力は乏しいですが、反原発運動の新しいシンボルとして、人と人をつなぐ媒介として、とても魅力的です。また、政府や電力会社の意向がどうであれ努力すれば形ある結果を残せることも魅力です。

NPO法人における監事は、会計監査とあわせて、NPO法人の運営全体を点検する役割を担っています。多彩なメンバーが集まる私たちのNPO法人が、設立の原点である原発ゼロを見失わず、法人の事業運営が民主主義の原則に立って適切な合意形成のもとにすすめられていくように監事として努力したいと思っています。

市民発電所づくりの他には、「希望のつばさプロジェクト」という市民運動を主催しています。20代、30代のメンバーを中心に、食事会、読書会、学習交流会、スタディツアーなどをおこなっています。今年10月には24日（土）から一泊二日で「福島原発事故スタディツアー」を開催する予定で参加者を募集しています。（詳細は、<http://www.kibounotubasa.net/>）年齢を問わず誰でも参加できます。福島原発事故から4年経った今も、11万人をこえる人々が避難生活をしていることを忘れてはいけないと強く思います。原発再稼働に反対して闘っていきます。

監事 かもした げん
鴨下 元

【編集後記】

6月21日の第1回総会と記念講演会を無事に終えることができましたことを、支えてくださっている皆さまにご報告申し上げます。さらに、第2号発電所の協力を金をお願いしておりましたが、こちらのほうもほぼ目途が立ち、本当に有り難いです。心より感謝申し上げます。これから夏本番を迎えます。節電も大事ですがお身体にお気を付けてお過ごしください。（加藤伸子）

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090—7948—6189（川岸）

